

2006 労災かわらばん 春号

Vol.18 発行日／平成18年6月5日 編集／釧路労災病院新聞局

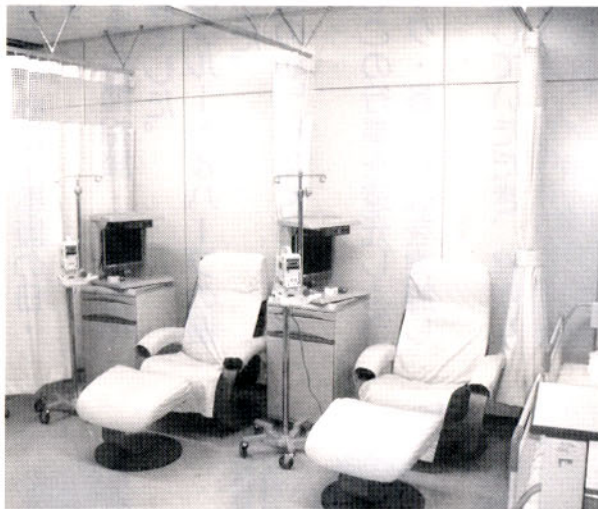
外来紹介 Part17

外来開設化学療法室

外来化学療法室長 宮城島 拓人

最近の癌化学療法法の進歩には二通りの流れがあります。ひとつはもちろん、がん細胞（腫瘍）の増殖を抑えることの出来る薬剤の開発と効果的な薬剤組み合わせの進歩。そうしてもう一つは副作用の軽減です。このどちらかが欠けても患者さんへの恩恵は限られたものになります。しかしながら現在の医療技術をもってしても、そのどちらをも完全に克服することは出来ていません。ましてや、腫瘍を完全にすることが出来るのはまだほんの一握りの患者さんであり、多くの人は、癌（腫瘍）との共存を余儀なくされ、少しでも癌の増大を抑えることを目的として化学療法を継続しているのが現状です。そういう意味では癌との闘い（共存）というべきかもしれません。は、患者さんにとって非常に忍耐力の必要な長い闘いとなります。ひと昔前はそれをすべて入院という形で継続していましたが、抗がん剤の副作用が強く、あるいは投与方法が複雑なために、入院して観察しなければならなかった事情があったからです。そのため化学療法を継続するためには、何ヶ月も入院してはなくてはならなかったのです。

しかし、だんだんと医療の評価も変化してきます。どのくらい腫瘍が縮小したかも大切ですが、いかに患者さんが日常生活を楽しみながら治療を受けられたかが大きな評価になってきています。すなわち、生活の質（QOL）が問われるようになったのです。そうなれば、いたずらに長期に入院させて日常から隔絶させるのが本当に良い医療なのかと疑問がわいてきます。そうして出てきたのが、抗腫瘍効果は同等かそれ以上で、日常生活を乱すことなく化学療法を行うこと、すなわち外来化学療法です。まだ完全な薬剤はないというのは前出の通りですが、副作用が軽減されかつ投与方法が簡便な化



学療法が出現してきたのは事実です。私たちはこの治療法を積極的に外来で導入していきたいと考えています。そのような治療を必要とする患者さんへ、治療の場と安らぎの場を提供することを目的として開設したのが、この外来化学療法室です。以前は外来採血室のとなりの点滴ブースで行っていたものを、より居心地の良い環境を提供するために、独立した部屋としました。

抗がん剤投与は血管注入がほとんどで数時間かかる患者さんもいらっしゃると思いますので、長い時間を無駄なく過ごしていただけるようにベッドサイドに個別のテレビも用意してあります。もちろん、治療の安全性がもっとも大切ですので、主治医と密な連携のもと、経験豊富な美容看護師が常時傍らでケアをさせていただきます。入院治療から外来治療への切り替えや次の予約もスムーズに行くよう、他の部署との情報交換や連携をはかり対応していきますのでご安心ください。

私たち化学療法に携わる者は、少しでも長く患者さんそして御家族が平穏な日常生活を送られますように手助けすることが出来たらと切に思っております。

労災病院ドクター紹介

- ①職種・氏名
- ②生年月日・血液型
- ③出身地
- ④専門・得意分野
- ⑤趣味等簡単な自己紹介・患者さんへ



今川 正吾 先生
①循環器科部長
②今川 正吾 昭和45年11月28日
A型



早川 敏文 先生
①内科部長
②早川 敏文 昭和38年5月17日



小林 清二 先生
①外科部長
②小林 清二 昭和33年7月29日
O型



松本 亮司 先生
①脳神経外科部長
②松本 亮司 昭和42年5月28日



高橋 知昭 先生
①産婦人科部長
②高橋 知昭 昭和42年9月7日
O型



吉田 眞子 先生
①耳鼻咽喉科部長
②吉田 眞子 昭和3月14日

- ③旭川市
- ④産婦人科全般
- ⑤音楽鑑賞・熱帯魚飼育

- ③北海道
- ④耳鼻咽喉科一般
- ⑤釧路労災に昭和53年より勤務です。一番の古手です。なによりも好奇心を失わず患者さんと向き合いたいと考えています。女性外来も担当しています。何かお役に立てる事があるかもしれません。